

第2回地域新エネルギービジョン策定委員会

日時 平成19年10月19日（金） 10時～12時
（12時30分～17時 先進事例調査）

場所 松阪市産業振興センター 3階研修室

出席者

策定委員会委員 10名

朴恵淑（委員長）、小林文秋、田中穰、富田求、西川博明、西村智行、西村勇喜、松本圭史、西口秀美（代理）、多賀雄伸（代理）

オブザーバー 1名

経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課 田嶋新エネルギー係長

事務局 4名

樋口環境部長、前川環境課長、三田環境推進担当主幹、若山環境推進係主任

コンサルタント 2名

株式会社ヒラテ技研静岡事業部 青木所長代理、菊池主任研究員



議題等

1. 前回指摘事項に対する修正報告

- 松阪市環境基本計画書について
- 本日の工程について
- 前回指摘事項に対する修正報告
- 市民事業者アンケート調査経過報告について
- 事務局先進事例調査について
- ビジョン策定等事業 事業実施フローについて

2. 第1章 地域新エネルギービジョン策定に関する基本的事項の確認

3. 第2章 地域のエネルギー消費構造の協議

4. 第3章 地域の新エネルギー賦存量の協議

5. その他

- 次回開催日程調整

議事の内容

環境部長 : 今回は、新エネルギーの利活用に向けた方向性が定まっていく委員会になって参りますので委員様からの更なるご協議、ご発言をよろしくお願い致します。

また、本日はこの会議の後、三重大学のフィールドサイエンスセンターと青山ウィンドファームへの先進事例調査となっております。今日一日、強行スケジュールではございますけれどもどうぞよろしくお願い致します。

1. 前回指摘事項に対する修正報告

(事務局説明)

- ・ 松阪市環境基本計画書
- ・ 本日の行程について
- ・ 前回指摘事項に対する修正報告
- ・ 市民事業者アンケート調査経過報告について

委員長 : ここで一度、今ご説明いただいた所までで、ご意見等をいただきたく思います。

今説明いただいたアンケート調査について論点を整理したいと思います。
今回のアンケートでは事業者アンケートと市民アンケートが行われたと思
います。事業者アンケートについての結果はいかがですか。

事務局 : 今回の委員会では市民アンケートについては速報でご報告いたしましたが、事業者については次回、市民アンケート結果とともに確定値をご報告
させていただきます。

委員長 : 次に回収状況ですが、市民アンケートの経過報告としては 430 通のものが
こちらの資料にまとめられているということですね。
今ご説明いただいた中で、今回市民アンケートの回収状況で、20 歳代の回
答割合が少なかったということですね。
市内の事業所などの協力で独自にアンケートを行ったということでした
が、アンケートの内容が同じということで、その結果は当初行った市民ア
ンケートに合算されるのか、されないのかなどについて事務局としてはど
のように考えていますか。

事務局 : 1400 人に対して無作為にアンケートを実施しました。その中で 20 歳代の方
の回答の割合が少なかったということは事実でございます。
この結果は本来の形としてそのまま公表いたします。また、20 歳代に回答
いただきました 100 人のアンケートは事務局が独自に 20 歳代の傾向を把握
するための参考資料として取り扱わせていただきます。

委員長 : 委員のみなさんはいかがでしょう。
今回のアンケート調査の結果から事務局が積極的にサンプルを取られたこ
とは大変素晴らしいことで、私が過去に携わったいろいろなビジョンや計
画の策定ではこのようなことはなく非常に貴重なサンプルが取れたと思
います。
20 歳代は環境についてのマインド、また教育で学んでいることから積極
的な意見が多く出ると私は思っています。

委 員 : 事務局として、何らかの傾向からランダムに抽出した人々へアンケート調
査を実施されたと思います。
この回収結果はそのままにして頂いて、この結果と事務局が独自に 20 歳代
の傾向を把握するための参考資料として取ったデータと大きく違う傾向が
現われている箇所については注釈でその傾向の違いを付け加えるなどされ
ればよろしいかと思ます。

委員長 : 大変いい意見だと思います。その他の委員何か意見がありますか。
1400 人に対して無作為にアンケートについては、その事実を淡々と事実を
載せた上で 20 歳代が少なかったので、参考として実施した 100 人のアンケ

一トの結果と傾向として大きく違うものや、若い世代の独特の感性を踏まえて、参考資料でありながらも表現などを工夫し記述すればよろしいかと思えます。

よろしくお願い致します。

(事務局説明)

- ・事務局先進事例調査について
- ・ビジョン策定等事業 事業実施フローについて

委員長 : 今後の日程はどのようになっていますか。

事務局 : 次回第3回策定委員会は12月25日の午後1時を予定しております。

委員長 : 第4回策定委員会はどのようになっていますか。

事務局 : 第4回策定委員会につきましては、現在調整中でございます。

委員長 : わかりました。NEDOに報告書を出す期限は2月末でしたか。

事務局 : はい。

委員長 : 2月末ということは、次回である程度形が見えてくるということですね。

2. 第1章 地域新エネルギービジョン策定に関する基本的事項の確認

(事務局説明)

委員長 : 今、説明いただいた中で何かご意見等ございましたらお願い致します。

委員 : P7のめざすべき環境像という中で4つの柱が挙げられていると思いますが、ここに省エネルギーについて書いてありますが、今後この省エネに関する記述というものは出てくるのですか。

事務局 : CO2の削減の観点から新エネルギーの導入のみならず、省エネルギーについても行なう必要があると考えております。

NEDO様の新エネルギーに関する支援事業として省エネについては記述の必要がないとご指示を受けた場合は、削除しなければならないということも考えられますが事務局としては載せて行きたいと考えています。

委員 : 前段のCO2の削減という意味は良く分かります。ただ、重点アプローチと位置づけられていると残すべきですが、この後これに関する記述が出てこない場合、これは消さざるを得ないと思えます。

- 委員長 : 松阪市はこのビジョン策定が終了した後、次年度以降どのように展開していくのですか。
また一旦このビジョンができたらしき期間を置いてその後何かしらのステップを踏んで新エネルギーの導入などを行っていくのか予定等がありますか。
それ次第でこの省エネの記述についても取り扱いが変わってくると思うのですが。
- 事務局 : 委員長がおっしゃっているステップというのは、例えばFSやFT等も含んでということでしょうか。
- 委員長 : 松阪市の中長期的なビジョンにおいて新エネルギー等が導入できるような計画があればNEDOの補助を活用する方法もあります。
- 事務局 : 市全体として限られた財源の中で、環境課の考えとしましては、今年度地域新エネルギービジョン策定を進めるなか、議論中ではありますが、方向性も見えつつあります。したがって、公共施設への太陽光発電システム設置導入を関係各課に働きかけております。
木質バイオマスについても、間伐材の利活用及び地域の活性化などを視野に入れております。
- 委員長 : P7のめざすべき環境像という中で4つの柱としての省エネルギーに関する記述の取り扱いについては、2章3章を聞いてから最後にもう一度協議することをお願い致します。

3. 第2章 地域のエネルギー消費構造の協議

(事務局説明)

- 委員長 : 今、説明いただいた中で何かご意見等ございましたらお願い致します。
- 委員 : 人口・産業からある統計の表において地区の項目で本庁とありますが、これは一般の人から見るとわかりにくく旧松阪市と言うほうが良いかと思いますがいかがですか。
- 事務局 : 以前こちらで統一した総称の使い方というものがあったと思いますので調整いたします。
- 委員長 : 他に何かご意見等ございましたらお願い致します。
- 委員 : グラフも多用されていて見やすいとは思いますが、ただ、単位についてどうかということが一つ。
たとえば、電気であればキロワットアワー、ガスだったら立米で書かれた

ほうがわかりやすいと思います。

比較対照ができない。同じような規模の自治体でどうなのかで松阪市は他の市に比べてどうなのか、確かに時系列ではわかるのですが他の自治体や一人あたりの使用量などが把握できずわかりにくいと思います。身近な単位の使用などわかりやすくしていただきたい。

事務局 : 資料編という形で説明を載せるかまたはその他の形で説明文を付け、市民の方々に理解いただけるよう努めてまいります。

他の地域との比較について、太陽光に必要な日照時間の優位性などについて東京のデータ等を用い比較できるよう修正して参ります。

委員 : ジュールなどの単位では説明文をつけてもわかりにくいので身近な単位を使用していただきたいと思います。

委員長 : 事務局が言われた通り、日照時間等について他の地域の数字を用いることは必要だと思います。

身近な単位を使うと言うことも大事ですので検討していただくようお願い致します。

委員 : P27 の都市ガスの推移で産業用の大幅な増加は何が原因ですか。

委員 : 家庭用につきましては大きな増加はないのですが、市内の複数の大規模工場がガスコージェネを導入されたために増加したものです。一つの工場だけでも導入されると使用量は大きく増えますので。それがたまたま、昨年、一昨年と導入が相次ぎました。今後はこのような増加は恐らくあまり無いと思います。

委員長 : 文章ではインフラの整備という文言を少し追加し、今後の推移および今回の増加の原因を工夫し記述してください。

先ほどの地域の名称の話ですが本庁と言ういい方は少し気になりますので事務局で調整できればお願い致します。それでは第3章についてお願い致します。

4. 第3章 地域の新エネルギー賦存量の協議

(事務局説明)

委員長 : 今、説明いただいた中で何かご意見等ございましたらお願い致します。

委員 : 畜産資源バイオマスの鶏糞の期待可採量は電力換算が25%で計算されているがこれは熱量換算と数値が逆ではないですか。

事務局 : 委員がおっしゃられている通りですので次回までに修正いたします。

- 委員長 : その他に何かご意見等ございましたらお願い致します。
- オブザーバー : 最後の新エネルギー導入のまとめでその前の松阪市の状況と言うところで、クリーンエネルギー自動車は市役所で導入されていること、また天然ガスコージェネレーションも市内事業者が行っているということで丸印がついていますので、P42のまとめにも項目を入れていただければと思います。
- 事務局 : ここでは、新エネルギーというものに絞り掲載させていただきました。現在松阪市では太陽光発電において市民の方々に補助金制度をを設置しています。しかし、市の財政等から太陽光の補助で精一杯と言う実情もございます。今回はビジョンということで将来的な展望も含めて織り込むことができればと、事務局として前向きに検討させていただきます。
- 委員長 : それでは、先ほどのP7のめざすべき環境像という中で4つの柱としての省エネルギーに関する記述の取り扱いについて再びご意見を頂きたいと思えます。委員長としての提案をさせていただきます。このビジョンと言うものは各地域の経済パフォーマンスなどから新エネルギーの導入によってCO2を削減すること目的としてあります。もうひとつ普及、啓発と言う観点からみんなでエネルギーの使用を抑えることや環境教育などからCO2を削減することも目的としてあると考えます。大体どこの新エネルギービジョンでも、教育関係の方、JAや森林組合の方が委員になられており、市民みなさんの強力無しには、どんなにいいビジョンを策定しても現実性が無く効果も現われてこないとおもいます。従いまして、この(4)の省エネに関する記述は残すということでお願い致します。ただ、文章のニュアンスや校正を工夫していただき自然な形にさせていただければと思います。委員の皆様よろしいでしょうか。
- 各委員 : はい。
- 委員長 : 委員の皆様のご了解を頂きましたので事務局の方は少し大変ですけれどもよろしくお願い致します。それでは、ここまでで本日の議題について全てご説明等をいただきましたが、全体を通して何かご質問がありましたらお願い致します。
- 委員 : はじめの方になるのですが、P5の新エネルギー等の分類とありますがたとえば水力発電と中小水力発電、それと廃棄物関連について国やNEDOが定め

ているものと複数違っていると思いますので、もう一度お調べになって訂正していただきたいと思います。

事務局 : 後日、検討いたします。

委員長 : 以上でよろしいでしょうか。それでは5.その他について事務局おねがいをいたします。

5. その他

事務局 : 特にございません。

委員長 : ありがとうございました。本日は昼食後みなさまと先進事例の調査に参ります。よろしくお願い致します。